C5-2

大阪大学における新入生の教科「情報」履修状況調査報告

清川 清，間下 以大，中澤 篤志，竹村 治雄

大阪大学 サイバーメディアセンター

{kiyo,mashita,nakazawa,takemura}@ime.cmc.osaka-u.ac.jp

概要：2006 年度より，高等学校において教科「情報」を履修した新入生が入学している．大阪大学サイバーメディアセンターでは，その履修状況を調査する新入生アンケートを 2007 年度より実施している．本稿では，2011 年度のアンケート結果を抜粋して報告する．

1 はじめに

大阪大学サイバーメディアセンターでは，2007 年度より新入生の高等学校における教科「情報」の履修状況を調査する「新入生アンケート」を実施している[1]．回答は任意とし，4 月から 7 月にかけて授業担当教員などを通じて新入生に協力を呼びかけ，2011 年度は 379 名の回答を得た．以下では，このアンケート結果を抜粋して報告する．

2 アンケート内容および回答者の構成

アンケート内容はコンピュータ利用教育協議会(CIEC)が実施している同様のアンケートに準じている．回答者自身に関する設問，教科情報の履修科目や時期に関する設問，履修内容に関する設問がある．詳しくは[1]を参照されたい．

回答者の所属部局は，人数順に工学部 82 名，法学部 66 名，理学部 51 名，基礎工学部 47 名，外国語学部 37 名，医学部 20 名，経済学部 19 名，文学部 16 名，薬学部 6 名，人間科学部 5 名，歯学部 3 名であった（未回答除く）．本学の定員数および本アンケート回答数の学部毎の割合を図 1 に示す．概ね学部定員数の割合に従った回答が得られている．定員数・回答数それぞれの文系・理系の割合は，いずれも 40.6%対 59.4%であった．これらのことから，本アンケートは本学の学部生の分布をよく反映しているといえる．

図 2 に示すように，高校での履修科目については，全体では情報 A, B, C の順に 27%, 12%, 9%となっている．2007 年の調査では情報 A, B, C の順に 34%, 14%, 7%となっており，やや情報 A の割合が下がっている．また，履修時期については 1 年次に約半数が情報を履修しており，この傾向は 2007 年からほぼ変化がない．

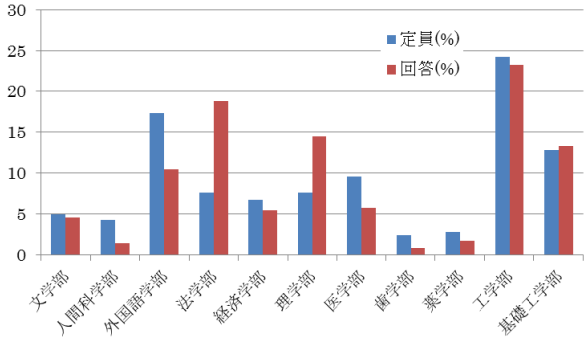

図 1: 学部定員およびアンケート回答数の割合

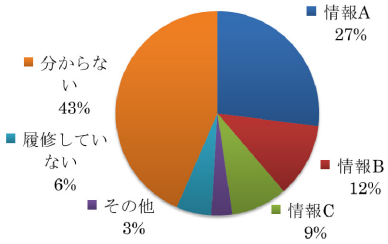

図 2: 高校での履修科目（複数回答可）

3 履修内容に関するアンケート結果

3.1 オフィススイート系ソフト

図 3 に示すように，ワープロや表計算などのいわゆるオフィス系ソフトについては，高校での履修率が高いが，その割には利活用に自信がないことが分かる．これらの項目は大学においても学習したいと考える学生が多く，高いニーズがある．

3.2 情報倫理系項目

図 4 に示すように，著作権や情報社会の利点と問題点，個人情報やプライバシーなどの情報倫理系項目については，高校での履修率が高いが利活用できるとの回答は 6 割前後と必ずしも高くない．また，これらの項目は大学での学習意欲が低い．大学では社会と関わりが急激に拡大するため，これらの項目は講義でしっかりケアするべきである．

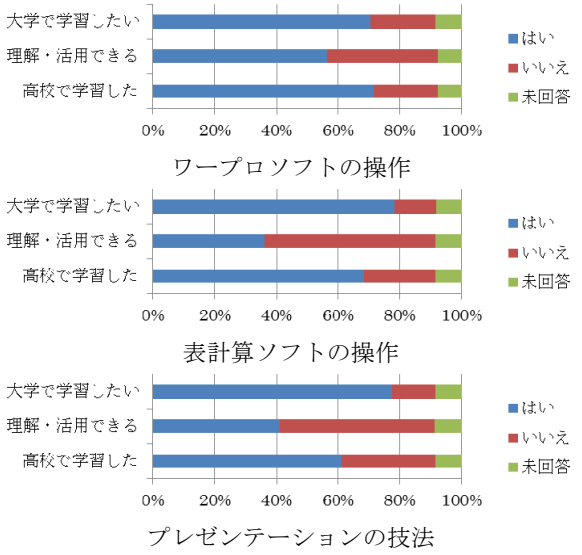

図 3: オフィススイート系ソフト

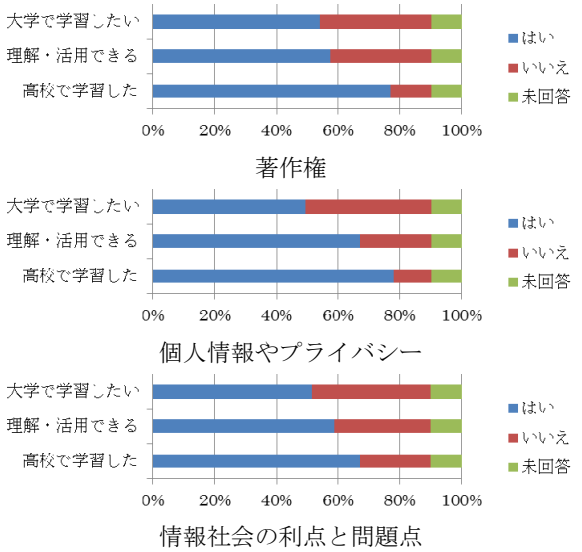

図 4: 情報倫理系項目

3.3 発展的項目

図 5 に示すように，プログラミングやメディア処理のようなやや発展的な項目については，高校での履修率が 2 割前後と低い．また，利活用できるとの回答も少ない．一方，これらの項目は大学での学習意欲が強く，高いニーズがある．

3.4 ニーズのある項目

図 6 は利活用できる割合と履修率の差であり，低いほどニーズがある．また，図 7 は大学でも学習したいと回答した割合と利活用できる割合の差であり，高いほどニーズがある．メールや検索を除く多くの項目で高いニーズがあることが分かる．全体としては 2007 年度から同様の傾向であるが，情報倫理系項目はよりニーズが高まっている．

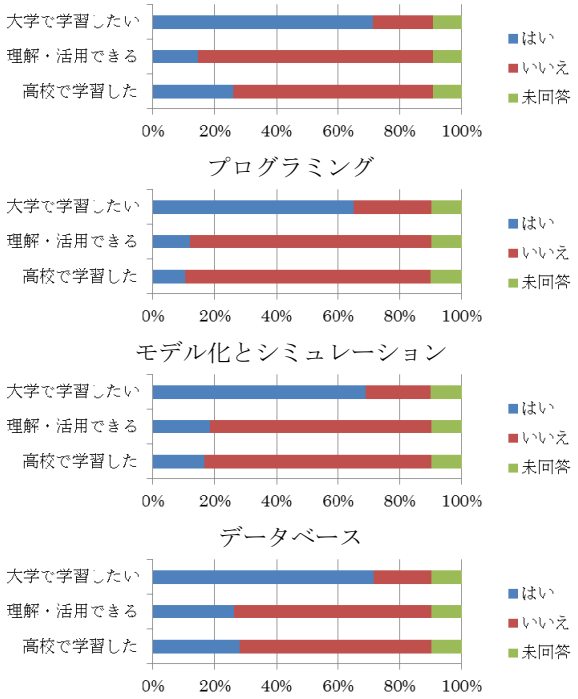

図 5: 発展的項目

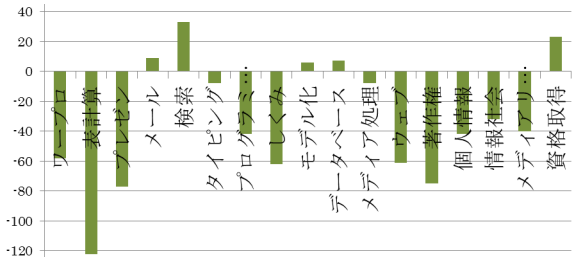

図 6: 履修率と利活用できる割合の差

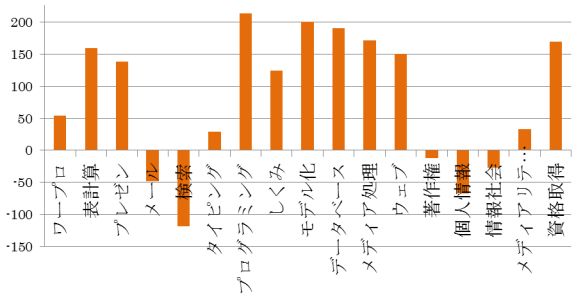

図 7: 利活用できる割合と大学での学習意欲の差

4 おわりに

2011 年度の大阪大学の新入生の教科情報の履修状況調査を報告した．今後も継続して調査を実施し，授業改善に利用していきたい．

参考文献

[1] 清川清，2007 年度新入生の教科「情報」履修状況調査報告，サイバーメディアフォーラム，http://www.cmc.osaka-u.ac.jp/j/publication/for-2007/21.pdf，2007